

オンラインを活用した居場所づくりの 取り組みについて

認定NPO法人カタリバ
オンライン・子ども家庭支援 事業責任者
中島典子

KATARIBA
Shape the Future

未来は、つくれる。

Shape the Future

どんな環境に生まれ育ってもすべての10代が、

未来をつくりだす意欲と創造性を育める。

カタリバは、そんな未来の当たり前を目指し

2001年から活動しています。

Vision

どんな環境に生まれ育っても、
未来をつくりだす力を育める社会

Mission

意欲と創造性をすべての10代へ



「子どもたちがどんな環境に生まれ育っても
未来をつくりだす力を育める社会」を目指し、
「困難を抱える子どもたちをまなびにつなぐ」とともに
「探究的な学びを届ける」ことに取り組みました。

2023年度は合計**159,026人**の子どもたちに活動を届けました。

- 探究的な学び 日本中の子どもたちの日常に探究的な学びの機会を届けるプログラム
- まなびにつなぐ 貧困や災害、不登校が様々な困難を抱える子どもたちをまなびにつなぐプログラム

マイプロジェクト

全国 | 探究的な学び

全国の高校生**98,935人**が
マイプロジェクトに挑戦しました。



sonaeru

石川県教育委員会 | まなびにつなぐ

地震で被災した能登半島の子どもたち
3,016人に安心できる居場所や必要な物資を届け、
保護者**513人**の相談を受けました。



おんせんキャンパス

鳥取県東伯耆市 | まなびにつなぐ

不登校の小中高生**81人**に、安心できる場と
学びの機会、社会とのつながりを届け、
保護者**123人**に寄り添いました。

フックアッププログラム

全国 | まなびにつなぐ

ヤングケアラーを含む生活困窮世帯の
全国**422人**の子どもたちと
その保護者**359人**に、オンラインによる
伴走支援と学びの機会を届けました。



相談チャット

全国 | まなびにつなぐ

オンライン無料相談を通じて
1,326人の子どもたちと
保護者**2,718人**の悩みに
寄り添いました。

アガチペース

東京都足立区 | まなびにつなぐ

困難を抱える子どもたち**247人**に、
学習や食事、体験活動を届け、
自立する力を育みました。

room-K

全国 | まなびにつなぐ

不登校の小中高生**195人**を
オンラインでの学びの機会につなぎ、
その保護者**172人**に寄り添いました。

カタリバオンライン for Teens

全国 | 探究的な学び

オンラインによる対話と創造的な学びの機会を、
全国の高校生**2,822人**に届けました。

大槌高校魅力化プロジェクト

岩手県大槌町 | まなびにつなぐ

大槌高校の生徒**230人**に
復興を担う人材となれるような
探究的なカリキュラムを届けました。

被災地の「放課後学校」 コラボ・スクール

大槌学園会(岩手県大槌町) | まなびにつなぐ
宮城みらいラボ(宮城県宮城郡)

961人の東北の小中高生に
「未来を思い描く力」を届けました。

b-lab

東京都文京区 | 探究的な学び

中高生の秘密基地を**4,157人**が
利用しました。



ROOTS

全国の中高生、保護者

全国 | まなびにつなぐ

外国ルーツの高校生たち**315人**の
学びに伴走しました。

RULE MAKING

全国 | 探究的な学び

全国**108校**の小中高生**37,082人**に、
「校則を主体的に見直す対話の機会」を
届けました。



学校横断型探究プロジェクト

全国 | まなびにつなぐ

全国**23校**の小規模高校の生徒**1,527人**に、
他地域の高校生や大人と学びを
深める機会を届けました。



コースセンター起業塾

全国 | 探究的な学び | まなびにつなぐ

10代のための場づくりを
全国**22道県33団体**と行い、
3,854人の子どもたちに
居場所を届けました。

カタリバ場

全国 | 探究的な学び

740人のボランティアキャストが
3,603人の生徒へ「ナノメの関係による
本音の対話」を届けました。

Voice from Teens 子どもたちの声

“スタッフのように誰かを守る大人に”

アダチペース卒業生(2024年報道、学生)

中高の6年間お世話になりました。毎日勉強を教えてもらいました。ご飯も一緒に食べました。色々な行事もありました。勉強に身が入らず、反発的な態度をとったこともありました。家庭の事情で辛いときもありました。けれどどんなときも、自分のために親身になって接してくれるスタッフの人たちがいました。カタリバに出会えたことは本当に幸せだった。今なら分かります。僕もカタリバの人たちのように、誰かを守るような警察官を目指してがんばります。

“人との出会いを恐れずに進みたい”

room-K卒業生(2024年報道、高校生)

私は中学生の頃、毎日学校へ行くことが難しく感じていました。カタリバのスタッフとのオンラインでの会話でさえ、最初は声を出すことも恥ずかしいと感じていました。でも、スタッフが、私の「好きなこと」の話に熱心に耳を傾けてくれたので、誰かと話すことは楽しいと思えるようになりました。今は、高校で美術を学んでいます。覚えてくれた人々への感謝の気持ちを忘れず、失敗を恐れず、色々な体験をしていきたいです。

オンライン特有の機能が居場所につながるハードルを下げる

- 匿名性があるから、対面が苦手な子でも安心して参加しやすくなる
- アバターがあることで、オンラインの間だけは本来の自分ではなく見せたい自分になりやすい
- テキストだけで会話ができたり、慣れてくれば声を出したり、小さなステップを踏みやすい

カタリバのオンライン居場所

- 火曜～土曜の18:00～21:30の間なら自由に出入できる
- アバター&あだ名で参加でき、匿名性を確保
- カメラ・音声オフでもOK。テキストで会話できるので、他者との交流が苦手な子も参加しやすい



↑ オンライン居場所。おしゃべり、相談、自習など自由に過ごせる



↑ アバターは自由に編集できる。

全国から様々な困難を抱えたこども・若者が居場所につながっている

対象年齢

小学生～高校生世代

抱えている困難

経済困窮、きょうだい児・ヤングケアラー、不登校、発達障害、外国ルーツ
過去に家庭内暴力や面前DVを受けた経験、PTSDなど

2025年9月末時点の利用者数398名

都道府県別（単位：人）

北海道	10	茨城県	8	新潟県	2	三重県	10	鳥取県	1	福岡県	6
青森県	3	栃木県	5	富山県	3	滋賀県	1	島根県	1	佐賀県	2
岩手県	3	群馬県	5	石川県	3	京都府	1	岡山県	6	長崎県	5
宮城県	4	埼玉県	44	福井県	2	大阪府	9	広島県	5	熊本県	1
秋田県	4	千葉県	8	山梨県	1	兵庫県	31	山口県	1	大分県	1
山形県	3	東京都	93	長野県	2	奈良県	5	徳島県	1	宮崎県	8
福島県	1	神奈川 県	25	岐阜県	3	和歌山 県		香川県	4	鹿児島 県	3
				静岡県	11			愛媛県	12	沖縄県	5
				愛知県	33			高知県	1	海外	1

顔の見える”近さ”による安心と直接会うことのない”遠さ”による気楽さ

家族構成:

母（無職）、本人(高2男子)

居住地:

過疎地

若者の状況

- ・ 高校を退学、ほとんど外に出ずオンラインゲームばかり
- ・ 最寄りのバスは1時間に1本しかないような地域に住む



「オンラインゲームでは相手が誰かわからず表面的な話しかできない。でもここでは顔が見えて安心できる大人がいる。かといって、近所で会うわけじゃないからこそ、自分の大事なことも気楽に話せるのかもしれない。」



オンラインの
居場所

週1回話すようになる

学校に行く意欲もなく、人生をどこか諦めてしまっているように見えた。(スタッフより)

毎週スタッフと楽しく話すうちに**気持ちが前向き**に。実は話したいことが沢山ある様子が見えた。

色々な学びにも触れるうちに、進路も少し考えることができるように。**スタッフからも必要な情報を提供**。

高校の単位を取り、**大学を卒業**することが目標になる。

オンラインでの一歩目

地域社会での二歩目



地域の
居場所

地域の居場所までは遠く、外に出て行くエネルギーもなかった

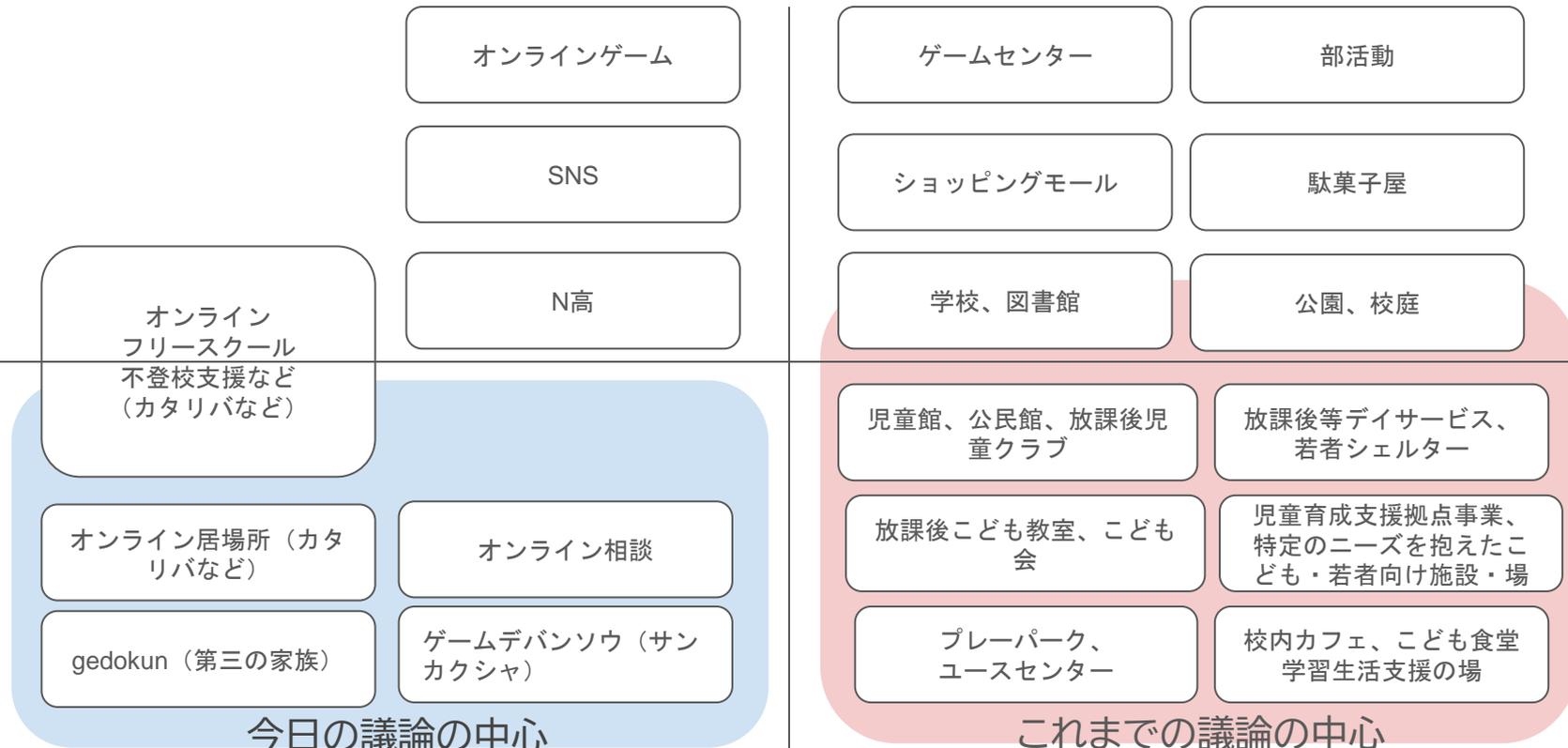
地域の無料の学習支援にも行くように。基礎から数学などを学び、意欲的に学びに向き合えるようになってきた。

若者の居場所はより多様になっている

結果的な居場所

オンライン

リアル



今日の議論の中心

これまでの議論の中心

目的としての居場所

役割①

リアルを広げる「拡張的役割」

地域資源とオンライン資源の相乗的活用によって居場所をより豊かにする

リアルの居場所

リアルの居場所

役割②

リアルを補う「補足的役割」

既存の地域資源を補完することで、リアルで届かない若者に届ける

役割③

オンラインならではの「固有の役割」

オンライン特有の新しい関りのかたちに基づくことで新たな居場所のあり方を可能にする

役割①

リアルを広げる「拡張的役割」

地域資源とオンライン資源の相乗的活用によって居場所をより豊かにする

リアル
の
居
場
所

KATARiBA

Shape the future

リアル
の
居
場
所

役割②

リアルを補う「補足的役割」

既存の地域資源を補完することで、リアルで届かない若者に届ける

役割③

オンラインならではの「固有の役割」

オンライン特有の新しい関りのかたちに基づくことで新たな居場所のあり方を可能にする

災害・感染症時のセーフティーネットとして、リアルが途絶えたときにもつながりを持続できる

災害

支援者も若者もそれぞれの避難場所からつながり
少しでも日常のつながりを感じることを目指した



感染症

新型コロナウイルスによる
全国一斉休校を機に
オンライン上に居場所を設置



カタリバオンライン利用に関する説明会の様子



リアルの居場所に通っていた若者と
一時的にオンラインでつながる

地域を超えた多様な人とのつながりと個別性の高い場をつくりやすい

- スタッフの居住地に制限がないことから、若者が普段の生活圏では出会えない人から刺激を受け、視野を広げ、多様な選択肢を知ることができる
- オンラインでの参画はハードルが低いため、多様な大人が関わりやすく、結果として若者1人ひとりに向き合いやすい環境をつくることできる

カタリバのオンライン居場所の例

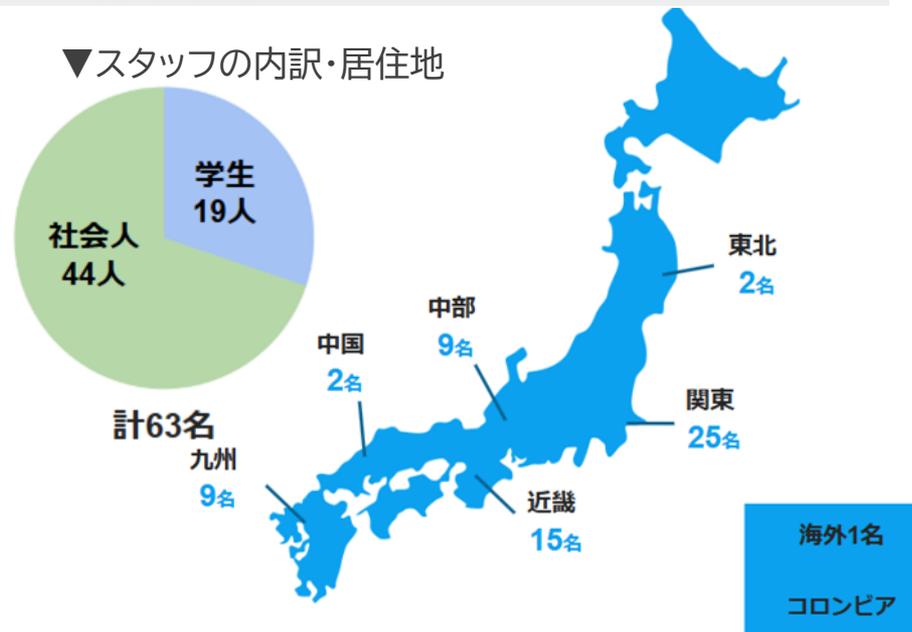
毎週、若者とスタッフの1対1で対話をする

思春期の揺らぎ世代である中高生にとって
自分の話だけを聞いてもらうことができる時間は重要



自分の悩みや色々な気持ちをさらけ出せる場所。
しっかり受け止めて貰えるので嬉しい。
愛知県・高1・女子

▼スタッフの内訳・居住地



少数派のニーズへ対応した場や個別最適な場をつくりやすい

- 地域の居場所だけでは、特定の興味関心を持つ子にとって仲間が見つかりにくかったり、発達特性のある子への個別最適な場を用意することが難しい場合がある
- オンラインを活用することは、リアルだけでは会うことのできなかつた同じ課題や関心を持つ仲間と出会えたり、対応しきれなかつた個別最適な場の提供可能性を広げる

カタリバのオンライン居場所
で提供する講座例

週1回 60分(火曜～土曜の19:00～21:30に実施)

子どもの興味関心にあわせて、希望選択制で受講。

特性のある子には通常のクラスよりもスタッフを多く配置したサポートクラスを用意。



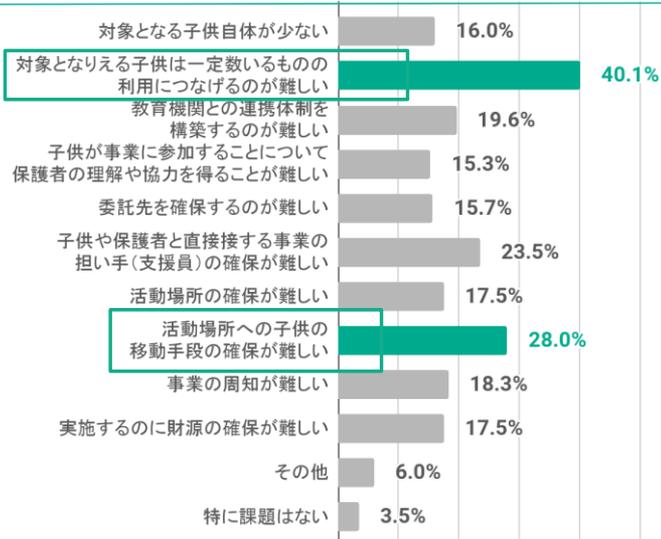
課題1 リアルな居場所に”つながるうえでの障壁”が存在する

- 地理的制約 : 過疎地域では、支援機関が少なかったり、交通手段が少ないことから居場所につながりにくい
- 物理的制約 : 家族のケアなどを理由に気軽に外出することに抵抗があり居場所につながりにくい

課題2 リアルな居場所を”自分の居場所だと感じられていない”若者がいる

- 心理的ハードル : 対面でのコミュニケーションが苦手なリアルな場に抵抗がある。そのため、リアルな居場所につながっていたとしても、その場を自分の居場所だと感じることができていない若者もいる

厚生労働省「子どもの学習・生活支援事業」実施上の課題



カタリバの現場で聞いた声



地域にこどもの居場所を作ったが自宅から遠く、交通手段も無いことから来れないという声もあります。

自治体の支援関係者



三重県・中1・女子

夜に仕事の母は日中は寝ています。その間は私が妹の世話をしているので外には出られません。



岡山県・高1・男子

ぼくは、友だちと上手く関わるのが難しくて話ができる友達がいなくて。

オンラインなら「居場所につながる」「居場所を感じるができる」

1 家族のケアがあるけど、家からならつながることができる



(茨城県・中3・女子)

10年前から母のケアを家族全員でしています。ヘルパーが来てくれるのは昼間までなので、夕方以降～夜間も含めて家族で見るしかないので、外出はできなかったです。でも、**オンラインなら自宅から参加できるので母のことも気かけながら参加できます。**

2 対人関係が苦手だけど、オンラインなら自分らしさを出せる



(群馬県・中2・男子)

スタッフさんと話をするのがとても楽しいです。僕は学校では友達と話すことが難しく感じるし、苦手です。だけど、ここは**画面越しなので気楽に話をするができます。**色々な話できて嬉しいです。ほくにとって、**他にはこんな場所はないです。**

3 自分の部屋にいながら人とのつながりを感じれる時間



(沖縄県・高校世代・男子)

中学で学校に行かなくなってからほぼ**自分の部屋で過ごし、家族も含め誰とも話さなくな**った。このままじゃいけないと思い、通信高校に通い始めたが友達はいないので、一日中スマホを見て過ごすことが多いです。週に1回、**スタッフさんと話をするのが唯一人と話をする機会です。**

地元を離れても、オンラインなら「戻れる」居場所として存在し続けることができる

ゆるくつながり続ける



- オンライン居場所を離れたあとも、LINEでゆるくつながることのできる場を提供
- 「なにかあれば頼ることができる」という場があると思えることを大事にしている

担い手として戻れる



- オンライン居場所に通っていた若者が担い手側を希望するケースがいくつか生まれている
- 卒業を機に地元も離れてどこに居住していたとしても、オンラインだからこそ戻れる居場所のひとつになっている

「空間」だけではなく、「人とのつながり」をどう育んでいくか

▼居場所感と主観的ウェルビーイングの関連

Q7居場所		日本		
		Q1 生活満足度	Q2(a) 幸福感	Q3 人生の意義
自分の部屋	なにもせずのんびりできる、ありのままでいられる	0.00	-0.04	-0.02
	悩みの相談ができたり、自分の意見や希望を受け入れてくれる	-0.03	-0.05	-0.06
	いろんな人と出会える、だれかと一緒に過ごせる	0.00	-0.04	-0.01
	好きなことをして自由に過ごせたり、新しいことにチャレンジできる	0.03	0.01	0.03
家庭	なにもせずのんびりできる、ありのままでいられる	0.17 **	0.16 **	0.18 **
	悩みの相談ができたり、自分の意見や希望を受け入れてくれる	0.11 **	0.08 **	0.18 **
	いろんな人と出会える、だれかと一緒に過ごせる	0.06	0.07 *	0.11 **
	好きなことをして自由に過ごせたり、新しいことにチャレンジできる	-0.02	0.06 *	0.00
サや習いごと 趣味の場所	なにもせずのんびりできる、ありのままでいられる	0.11 **	0.10 **	0.07 *
	悩みの相談ができたり、自分の意見や希望を受け入れてくれる	0.01	0.02	0.02
	いろんな人と出会える、だれかと一緒に過ごせる	0.04	0.05	0.03
	好きなことをして自由に過ごせたり、新しいことにチャレンジできる	0.09 **	0.06	0.06
地域	なにもせずのんびりできる、ありのままでいられる	0.12 **	0.12 **	0.14 **
	悩みの相談ができたり、自分の意見や希望を受け入れてくれる	0.13 **	0.14 **	0.13 **
	いろんな人と出会える、だれかと一緒に過ごせる	0.14 **	0.17 **	0.14 **
	好きなことをして自由に過ごせたり、新しいことにチャレンジできる	0.09 **	0.08 *	0.08 **
インターネット空間	なにもせずのんびりできる、ありのままでいられる	-0.04	-0.02	-0.05
	悩みの相談ができたり、自分の意見や希望を受け入れてくれる	-0.08 **	-0.09 **	-0.04
	いろんな人と出会える、だれかと一緒に過ごせる	-0.02	-0.02	-0.03
	好きなことをして自由に過ごせたり、新しいことにチャレンジできる	-0.04	-0.01	-0.07 *
自由度調整済み決定係数		0.134	0.133	0.158
n		1089	1089	1089

「家庭」・「地域」などが、生活満足度、幸福度、人生の意義を高める一方で、「インターネット空間」は生活満足度に対して負の側面があることがわかる

「人とのつながり」を感じることができているかどうかでウェルビーイングに大きく関わってくるのではないかと

出典：我が国と諸外国のこどもと若者の意識に関する調査（令和5年度）こども家庭庁 長官官房参事官（総合政策担当）

オンラインでも”人とのつながり”を感じることでできる居場所づくり

カタリバのオンライン居場所

- 家族と十分な時間をもちにくい子のために、「自分のために時間を使ってもらえる感覚」を育むことを大切にしている
- 「見てもらえている」「大事にしてもらえている」という安心感のもと、自分らしく過ごせる居場所
- 自宅にいながら「誰かと一緒に」がんばる環境

▼スタッフは顔を出す



▼スタッフと一緒に自習を進める



オンラインでのつながりを地域につなげていく連携が重要

オンライン居場所

1 オンラインだからこそ踏み出せる一歩目



高2・男子

学校も休みがちで、お母さんに教えてもらった無料の学習塾にも行く気になれなくて..そんな気持ちのときに、オンラインは始めやすかった。オンラインで話すうちに、もう少し頑張ってみようと思つて地域の無料の学習塾に行ってみた。

地域（リアル）

2 多くの資源はリアルの地域社会に紐づく



現状 同じプラットフォームに対して、自治体ごとに個別に事業連携を行っている

課題 オンライン本来の「地域を超える強み」が十分に活かせていない

- 進学や就職で地域を移動すると、つながりが途切れてしまう
- 全国共通のプラットフォームであっても、利用や知見が自治体ごとに分断されている
- 結果として、オンラインで本来可能な「広がり」が制限されている

▼カタリバが連携している自治体

自治体名	連携部局	連携形態
愛媛県宇和島市	保健福祉部	業務委託契約を締結
愛媛県鬼北町	生活課	業務委託契約を締結
茨城県	福祉部	連携協定を締結
東京都板橋区	子ども家庭部	業務委託契約を締結
宮崎県延岡市	健康福祉部	連携協定を締結
三重県桑名市	子ども総合センター	業務委託契約を締結

自治体名	連携部局	連携形態
埼玉県入間市	教育委員会	業務委託契約を締結
埼玉県戸田市	教育委員会	業務委託契約を締結
東京都文京区	教育委員会	業務委託契約を締結
東京都足立区	教育委員会	業務委託契約を締結
愛知県春日井市	教育委員会	業務委託契約を締結
三重県四日市市	教育委員会	連携協定を締結

地域によって抱えている課題は多様で一律ではなく、そこに住む若者のニーズも地域ごとの文脈に結びついていることも多い。

”地域と協働し居場所を育む”という視点も欠かせない

▼カタリバが連携している自治体から聞いた声

自治体名	担当者	地域の課題
A市	福祉部	家庭訪問をしても会えない子がいる。また、地域が広いことから頻度高く家庭訪問することにも困難があり、こどもとの関わる接点を増やしたい。
B町	福祉部	対面の居場所作りに取り組んでいるが、つながれない子どももいることに課題感があるため、その補完として活用したい。
C市	教育委員会	まずは不登校の子向けのサポートルームにも来ることができておらず、学校との接点が全く持ていない子の居場所を作りたい。
D市	福祉部	自宅でケアをする子がオンラインで自分のために使える時間を作りたい。

リアルな居場所だけでは、つながれない若者、居場所を感じられない若者がいる

オンライン居場所の役割

- **オンラインはリアルを補完・拡張する**
 - リアルとオンラインは二項対立ではなく、相互に補い合う社会的インフラ
 - 地理的・心理的・物理的な制約を補完し、多様なニーズに応じてリアルの価値を拡張する
- **オンラインには固有の強みがある**
 - 匿名性、地域を超えた出会い、継続性といったオンラインならではの特性を活かすことで若者にとってより多様な居場所整備が可能となる

「新たな居場所の選択肢」となり、その先のリアルな居場所にも
つながりたいと思える若者を増やすための「糸口」になるのではないか

今後の検討の視点

- リアルな居場所だけでは届かない若者のために、オンライン居場所を社会的インフラとして位置づけることが必要ではないか
- その際、特に「人材」と「仕組み」から検討を進めていく必要があるのではないか

人材

- オンラインの特性を理解したうえでの居場所づくりができる人材、リアルと変わらない「人とのつながり」を届けるための担い手などの育成
- オンラインを支えるIT運営人材の育成・確保

仕組み

- **共通基盤の整備**: 国レベルでの一定の標準仕様やガイドラインの提示
 - **知見の集約と提供**: オンライン居場所の運営に必要なノウハウ、セキュリティ対策、個人情報保護、安心・安全の工夫などを整理・共有
 - **情報・リソースのハブ**: 自治体や事業者が参考にできる事例集、FAQ、チェックリストの整備など
- 国レベルでの整備が望ましいと同時に地域との協働という視点が欠かせない